

ス-37 「東北タマネギ生産促進」 研究開発プラットフォーム

タマネギの国内消費の約6割は加工・業務用であり、周年で安定供給が求められ、生鮮野菜の中では輸入量が一番多いです。国産のタマネギは西日本産から北海道産に切り替わる7～8月に供給量が少なく、この時期の安定供給が課題となっています。

国産タマネギの主な出荷時期

栽培地	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
佐賀・兵庫・長崎	出荷								定植			
その他（関東）			出荷	供給の少ない時期					定植			
北海道			定植					貯蔵・出荷				

東北地域では秋まき栽培に加えて、農研機構が開発した春まき栽培を導入することで、7～8月に収穫が可能となり、産地の拡大が期待されます。

東北でタマネギが出荷可能な時期

栽培地	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
東北 秋まき	出荷				出荷		定植					
東北 春まき	定植				出荷							

東北地域における タマネギ栽培体系 標準作業手順書

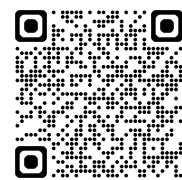
HP公開版
Version 2.0



農研機構

東北地域での秋まき栽培、春まき栽培に関する基本的なタマネギの栽培技術についての標準栽培手順書（SOP）を作成し、2024年11月8日に農研機構のホームページで公開しました。

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/42>



- a. 播種・定植適期表示機能
- b. 栽培スケジュール表示機能
- c. タマネギSOP表示機能
- d. Q&A表示機能



オンラインを活用した栽培技術支援の機能として、「タマネギSOP」を基に、東北地域の気象情報等を反映した栽培管理情報を提示する機能を作成し、東北タマネギ栽培セミナー（1/16開催）で紹介しました。

また、セット栽培に関するSOPも作成しました。

現在の構成員

代表：涌井徹（みらい共創ファーム秋田代表）

プロデューサー：塚崎光（農研機構 東北農業研究センター 畑作園芸研究領域長）

管理運営機関 連絡先：農研機構 東北農業研究センター 事業化推進室 田宮

TEL 019-643-3412 E-mail: jigyoka@ml.affrc.go.jp

(国研)農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター、(株)みらい共創ファーム秋田、双日(株)、(株)秋田銀行、日本通運(株)公用営業部、(株)サカタのタネ野菜統括部、タキイ種苗(株)東北支店、(有)エーアンドエス、日本戦略投資(株)、宮城県農業・園芸総合研究所、NECキャピタルソリューション(株)新規事業部、岡山大学農学部、(株)植物研究所、新篠津つちから農場(株)、(株)NTTアグリテクノロジー、男鹿市建設部農林水産課、(株)東北銀行、(有)折林ファーム、(株)三井住友銀行サステナビリティ企画部、東日本電信電話(株)秋田支店、カネコ種苗(株)、(株)日本政策金融公庫農林水産事業東北地区、(株)小林精機、紫波町産業部農政課、株式会社農林中金総合研究所、(株)たから、(有)マルショウ農園